



明けましておめでとうございます。

今年の初日の出は、例年に増してとても美しかったとか。年末の校長通信18号では、谷川俊太郎さんの「朝のリレー」という詩を紹介しました。

30代半ばの頃、アメリカに3か月ほど派遣され、現地の学校で授業を行うプログラムに参加したことがあります。日本の高校生の生活を紹介する授業では、当時の勤務校の高校生の動画を見せた後、アメリカの高校生に向けて、次の詩を紹介しました。(もちろんカクコの英語で)

24時間休むことなく、地球上のどこかで何億という子供たちが勉強しているのです。この偉大なる営みこそ、人類の未来への希望です。

ー進歩と希望へのあゆみー

そのとおりだね、エンリーコ、勉強はお前にとってつらいことなのだ。……が聞きなさい！少し考えてごらん！エンリーコ、……

朝出かけるとき……ちょうど今、この市内で3万人の子供たちが、数時間、或る部屋に閉じこもって、お前と同様勉強をするのだ。……と考えてごらん。いや、それどころか、あらゆる国々で無数の子供たちが、ほぼ同じ時刻に学校へ急いで行くのだよ。

そういう子供たちを想像の眼で見てごらん。

その村の小道を歩いていくものもあり、にぎやかな街の街路を歩いているものもある。海や湖の岸にそうて行くものもあれば、燃えるような太陽の照る下、霧の立つ中、運河の入り交じる国のポートの中、広い野原を馬に乗って、あるいは橇(そり)を雪の上にすべらせ、谷を渡り、丘を越え、森や林を横切り、淋しい山路をたどり、一人で、二人で、群をなして、長い列をつくって、誰もがみな本を小脇にかかえて、いろいろさまざまな服装をして、幾千種の違った言葉を語り、氷にとざされる北の果てのロシアの学校から、棕櫚(シュロ)の樹の蔭(カゲ)さすアラビアの果ての学校に至るまで、幾百千万の学校の生徒が、同じ事を百ものちがった形で勉強するのだ。この幾百国もの子供たちの限りない大きな集まりを想像してごらん。

それから又考えてみることだ……この運動がやんでしまったら、……人間は野蛮に逆戻りするだろう。この運動は、進歩的なものであり、希望であり、世界の光栄であるということ。

だから勇気を出しなさい。この大きな軍隊の兵士よ。お前の本はお前の武器だ。お前のクラスはお前の小隊だ。戦場は全世界だ。勝利は人類の文化である。

わたしのエンリーコ、卑怯な兵士になるな。……お前の父より。

(アミーチス「クオーレ～愛の学校～」新潮文庫より)

マルコ少年が母親に会うため世界中を旅する『母をたずねて三千里』という物語を知っていますか？小学生の頃、アニメ(世界名作劇場)で見た記憶があるので、私と同世代(52歳)であろうみなさんの保護者の方はご存知かもしれません。その原作が「クオーレ」です。

イタリアの、日本でいう小学4年にあたる<ぼく>エンリーコ少年が綴った、1年間の日記がベースになっています。いろいろなクラスメートとの関わりの中で<ぼく>の心が日々成長していく様子や、時折、おとうさんとおかあさんから送られる手紙が入ります。また、毎月1つ、先生がお話を教えてくれます。道徳的なテーマを持った9話ある短編の内の1つが「母をたずねて三千里」なのです。



豊北高校がラジオで紹介されました。

年末の日曜日、自宅で年賀状を書いていると、ずいぶん昔に、一度、私が、番組に出演(※)して以来、懇意にしているK R Yラジオのディレクターさんからお電話がありました。先日、講演をいただいた藻谷浩介さんが広島県のラジオ番組に出演し、豊北高校での講演会の様子を紹介していたというのです。

高校時代の私にとって、ラジオは受験勉強の必需品で、真夜中の受験勉強のお供は、ラジオの深夜放送。いや、ラジオの深夜放送を聞く傍ら受験勉強をしていたといってもいいでしょう。番組の始まりの時間が近づくと、つまみを回して周波数をあわせ、これが、県外の放送局の番組ともなれば、雑音の中、大きくなったり小さくなったりするパーソナリティーの声に耳を凝らし、感度のよい周波数を探しながら、随分苦勞して聴いたものです。

今では、radiko (ラジコ) というアプリを入れれば、スマホやパソコンでインターネットを通して聴くことができるようで、聴き逃した番組や、プレミアム会員になれば、全国の番組も聴くことができるそうです。

早速、プレミアム会員になって、その番組、RCCラジオ「新里カオリのうららか日曜日 スローライフしませんか」を聴きました。こんな感じで、豊北高校のことを紹介してくださっていました。

※ヤスベえさんの番組の「好きだよ先生」というコーナーで世界中のいろいろな民族衣装を着て世界史の授業をするコスプレ先生として出演しました。コスプレ先生としての伝説を「やまぐち総合教育支援センター/先生のページ/第10回・学校が変わる瞬間…」で紹介しています。



MC：藻谷さんは、いろいろな所で、いろいろな人と出会っておられますが、特に印象に残っている地域や心に残っている人はいらっしゃいますか。

藻谷：最近、山口や島根など、高校で話す機会が増えているのですが、その中でも、下関の北の旧豊北町に豊北高校というのがあって、そこの高校で、生徒と話したのはよかったですね。何ていう名前だったかな、再編するんですけど、子供たちが本当に明るくてね。とても、山口県らしい、田舎の大人しい子じゃなくて、**みんながゲラゲラ、にこにこしながら、いろんなことやりましたって発表しているんです。笑いながらやるっていうのがいいよね。**

MC：これからの日本を支え、いろんなことを吸収して、育っていく世代ですよ。

藻谷：同じことをやるとしても、どうせ、やるのが同じなら、にこにこして笑いながらやるべきだよ。大人が真面目な顔して、子供がいい子だから黙ってやるんだけど、真面目な顔してやれば、うまくいくわけでもないし、もっとにこにこして、笑い飛ばしながらやるべきですよ。

MC：そういった意味でも、教育でも、どんどん自由に話すべきですよ。話す側も、「ちょっと今の話なんなのですか」って話に割って入られてもいいわけじゃないですか。

藻谷：そうそう、その講演会の司会をした男の子がね「藻谷という偉そうな話をする人が来るそうだけど、一発、喰ってやろうか」とこっそり言っていたらしいのを後で聞いたんですが、なかなかたくましいですよ、山口県の高校生は。私もそうやって成長してきたんですが。大人は偉そうにしていますが、たいしたことないんだから、どんどん、若い、お笑いの精神でチャレンジすればいいですよ。

実は、地域のよさを親御さんなんかのほうにわかっていなくて、高校生が本気で勉強して、ちゃんと親に説明するという発表をしていたんですけど、真面目に勉強した高校生がいうと親もそうかなって思う、素晴らしい取り組みだなんて思いました。